

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度技術情報第10号(イチゴのハダニ類)について(送付)

イチゴ(親株)のハダニ類について情報を取りまとめましたので送付します。ハダニ類の発生が増加しています。梅雨明け後、さらに発生が増加することも予想されますので、今後の発生に注意して下さい。

平成28年度 技術情報第10号

1 農作物名 イチゴ(育苗期)

2 病害虫名 ハダニ類

3 発生状況

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

4 情報の根拠

(1) ハダニ類の6月の発生ほ場率は53%(平成27年27%)で平成より高く(図1)、過去9年では最も高い。また、発生程度の高いほ場も認められている(表1)。

(2) 殺ダニ剤を中心に9剤を供試し、ナミハダニ卵に対する殺卵効果を調べた結果、殺卵率の低い薬剤が認められた(表2)。なお、表2の結果は、成虫、若虫などに対する殺虫効果は未調査のため、ほ場での防除効果とは異なるので注意する。

5 防除上注意すべき事項

(1) 育苗床での防除を徹底し、ほ場への苗での持ち込みを防ぐ。

(2) 下葉や寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。

(3) ハダニ類では防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから、薬剤が葉裏や下位葉にかかるように散布する。

(4) 薬剤によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する。

(5) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

6 調査結果

【巡回調査結果】

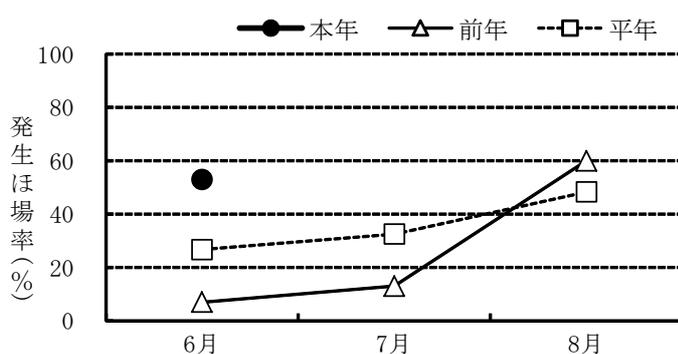


図1 ハダニ類の発生ほ場率の推移

表1 6月の発生程度別ほ場数(ハダニ類)

調査地点	ほ場数	発生程度 ^{a)}			
		甚	多	中	少
日置市	4			2	1
さつま町	3		1		1
志布志市	7				3

a) 発生程度(寄生株率)

甚: 96%以上, 多: 71~95%, 中: 41~70%, 少: 1~40%

【各種薬剤のナミハダニに対する殺卵効果】

採集地点：日置市，さつま町

検定日：日置市：平成28年5月10日～5月18日，さつま町：平成28年5月28日～6月5日

試験方法：平成28年5月10日に日置市，5月24日にさつま町のイチゴほ場からナミハダニの発生した葉を採集した。そこから雌成虫をインゲン葉片（4 cm×4 cm）に5頭ずつ放飼し，72時間産卵（1葉当たり8～46卵）させた。これを水道水で希釈した薬液（ブレイクスルー，5000倍を加用）に10秒間浸漬し，浸漬5日後に孵化状況を調査した。なお，インゲン葉は産卵期間，薬液浸漬から調査までシャーレ（直径6 cm）に水分を含ませた脱脂綿を敷いて，その上に置き25℃に設定した室内に静置した。

表2 各種薬剤のナミハダニに対する殺卵効果（平成28年）

供試薬剤名	希釈倍数	補正殺卵率（%）		作用機構分類
		日置	さつま	
ダブルフェースフロアブル	2,000	0.0 ●	82.1 ●	25B・21A
スターマイトフロアブル	2,000	76.7 ●	89.9 ●	25A
カネマイトフロアブル	1,000	24.1 ●	75.4 ●	20B
バロックフロアブル	2,000	0.0	10.2 ●	10B
コロマイト乳剤	1,000	57.1 ●	46.0 ●	6
マイトコーネフロアブル	1,000	0.0 ●	21.3 ●	20D
サンマイトフロアブル	1,000	0.0	0.0 ●	21A
ニッソラン水和剤	2,000	0.7 ●	2.0 ●	10A
テデオン乳剤	500	33.8 ●	54.8	12D

注1) 成虫，若虫などの殺虫効果は調査していないため，実際のほ場での防除効果とは異なることが推測されることから，取り扱いには注意する。

注2) 各地点1ほ場のみ調査であり，地域性は示していない。

注3) 薬剤感受性はほ場により異なることが予想されるので注意する。

注4) コロマイト乳剤：イチゴ親株床で適用

注5) ●印：前年作（育苗床を含む）での使用を示す（耕作者聞き取り）

注6) 作用機構分類：IRACグループ表示